



第3次

七尾市 地域福祉 活動計画

ダイジェスト版



地域福祉活動計画とは…



支え合いや助け合いがひろがり、子どもから高齢者まで、みんなが安心して暮らせるようにするための計画書です。七尾に住んでいるいろいろな人の意見をきいて、困りごとや心配なことを調べました。そのあと、色々な立場の地域の代表の方が集まって、どのように解決していくかを話し合い、取り組みをまとめました。今回つくった第3次計画でも、10年後に心配事が少なくなるように、たくさんの取り組みを紹介しています。



「みんなが解決したいこと」は「みんなで解決(取り組み)する」こと



これからの取り組みを考えるために、たくさんの人に意見をききました。意見は、七尾市内の15の地区で開催した、誰でも参加できる福祉の話し合い(地域福祉懇談会)と、将来の七尾に住み続けてほしい中学生の年代、その保護者の年代に対するアンケートで集めました。地域福祉活動計画は、私たち一人一人や、町内会、学校、仕事場、子ども会、青壮年会、老人クラブなど、色々な組織や役割の中で、みんなで取り組んでいく福祉活動の道しるべとなるものです。

地域福祉懇談会・アンケート調査から見えてきた課題(抜粋)

	課題別	地域福祉懇談会での意見	中学2年生へのアンケート	(中学2年生の)保護者へのアンケート
重点項目 1	移動	・運転免許を返納した後の移動 ・公共交通機関が少ない(ない) など	・公共交通機関が不便	・公共交通機関が不便 ・車が無いと生活できない
重点項目 2	生活	・高齢者や障害者の生活支援、ゴミ出し、除雪 など		
重点項目 3	見守り	・高齢者、障害者、引きこもりなどへの見守りや安否確認 など		
重点項目 4	買い物	・店が少ない、移動手段がない、交通の便が悪い など	・買い物をするところがない ・行きたい店、遊ぶところがない	・買い物する店が少ない ・ショッピングモールなど大型の店舗がない
重点項目 5	つながり・担い手	・近所付き合いの希薄化 ・若い人の地域離れ ・世代交代ができない ・居場所がない ・人材不足 など	・地域活動の機能不全(町会組織、祭りの催行)	・町会行事や祭り、ゴミ当番など役割をするのが負担 ・若者が少なく地域活動が困難になる
重点項目 6	介護・健康	・在宅での介護 ・施設利用 ・仕事と介護の両立への不安 ・健康維持への不安、認知症への不安 など		
重点項目 7	空き家・環境整備	・空き家 ・空き地の管理 ・防災・防犯上の課題 ・道路、通学路の整備、歩道や横断歩道 ・信号などの整備 など	・歩道が狭い、道が整備されていない ・横断歩道・信号がなく危険 ・環境問題(ゴミ、温暖化、環境破壊)	・道路に信号、横断歩道がない ・危険な場所が多い
重点項目 8	防災・災害対策	・地域の防災、災害時の地域の対応 ・高齢者の避難体制の検討 など		
重点項目 9	継続して地域に関わる仕組み	・地域行事の参加が少ない ・集落の維持が困難 ・地域活動の存続 など	・人口問題(少子高齢化、人口流出)	・県外に進学後七尾に戻る魅力がない ・子どもが遊ぶ場所がない、少ない

課題から重点事項を抽出、取り組みをまとめました!

調査の結果から、色々な世代で共通して課題と思われることがわかってきました。全体をとおして、共通していることは「移動」「買い物」「つながり」「環境整備」でした。また、地域全体や保護者では、「担い手」や七尾の魅力、子育て環境に関する意見もありました。

若い人の「買い物」は、ショッピングモールやデパート、おしゃれな店などがあるといいなという意見でした。高齢者の「買い物」は、身の回りに買い物ができる場所が無くなってしまったこと、免許を

返した後の「移動」に対する不安もあり、今後、生活必需品などの買い物に対する不安という、違う結果になりました。このように、世代によって、同じ問題でも、困り方が違うこともわかってきました。

また、「環境整備」では、歩道や道路の段差、歩きにくい道や暗がりなど、直接的な福祉の課題ではありませんが、子どもも高齢者も安心して移動できる道にしたいという意見が多くありました。今後は、さらに障害のある方の移動も一緒に考えていく必要があります。

社会福祉協議会では、色々な仕事・(地域の)役職の住民の皆さんが参加する地域福祉推進会議と作業部会を開催し、困りごとや将来どうにかしたいことを「重点項目」としてまとめました。重点項目は、今後10年間の計画の期間内に、みんなが協力し合い、特に力を入れて解決していくことです。地域福祉推進会議・作業部会では、課題解決のアイデアや取り組みのヒントについて話し合いを重ね、計画書に取りまとめました。

重点項目 1 移動

未来のイメージ

「誰もが当たり前に出かけられる地域」

みんなの困りごと、将来不安なこと



- ・バスの停留所も便数もすくない
- ・親の送迎がないと子どもは移動できない
- ・将来、車に乗れなくなってからの生活が不安

こんなふうになったらいいな！



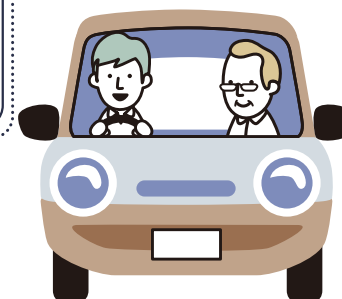
- ・テクノロジーを積極的に活用する
- ・公共交通機関の維持ができる
- ・アクセスが便利になる
- ・行きたいところに自由に行ける
- ・使いたいときに使える車が地域にある

助け合い・地域の取り組み

- ・自動運転車両の実験を積極的に取り入れる
- ・乗り合いタクシーやバスで買い物ができるようなシステムをつくる
- ・田んぼ、畑など車が必要な用事には地域で車をシェア

一人ひとりの取り組み

- ・乗り合いタクシーを利用する
- ・筋力を維持して自分の足で店に行く
- ・運転代行を頼む



ポイント

人に頼みやすい人は頼む、頼みにくい人はサービスを利用するなど、人に応じたシステムを作る

重点項目 2 生活

未来のイメージ

「困り事が相談できる、相談されたことを助けられる地域」

みんなの困りごと、将来不安なこと

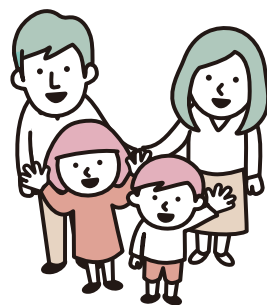


- ・日常のちょっとしたことが大変、食事が作れない
- ・草むしり、ゴミ出しが高齢者には負担
- ・除雪が出来なくなってきた
- ・ゴミの分別が複雑、難しい
- ・困りごとをどこに相談してよいかわからない

こんなふうになったらいいな！



- ・困りごとに地域全体で取り組むことができる
- ・地域以外の資源・力を活用できている
- ・困りごとを相談できる場がある



助け合い・地域の取り組み

- ・高齢者の悩みを聞く場をつくる
- ・町会や子ども会で、高齢者の困り事を自分のこととして考える場をつくる
- ・町会に福祉部会を設けるなど、困っている人を把握し、助け合いを考え取り組む仕組みをつくる
- ・地域の困りごとを外部委託する

取り組みのアイデア

- ・分別が複雑で難しい場合は、地域全体で分別の方法をチラシにまとめ分かりやすくする
- ・集積所が遠くてゴミを運べない場合は、町会が違って一番近い集積所に出せるように依頼したり、小中学生のボランティアにゴミ出しを手伝ってもらう

一人ひとりの取り組み

- ・困ったことがあったとき地域に助けてと言える

ポイント

- ・地域によって社会資源などが違う
- ・必要なものに格差がある
- ・誰か困っているか、何に困っているかを知り、困りごとに地域で取り組む雰囲気醸成する
- ・この「生活」という項目は、介護やゴミ捨て、買い物、移動等、日常のささいな困りごとの全てに関連している

重点項目 3 見守り

未来のイメージ

「子どもも大人も高齢者も顔見知り、あいさつができて見守り合える地域」

みんなの困りごと、将来不安なこと



- ・見守り体制、必要だけど作るのが難しい
- ・通学路の安全確保（見守り、危険箇所把握）
- ・高齢者の見守り（引きこもり）どうする？
- ・徘徊する高齢者の見守りが大変
- ・高齢者世帯への関わり、どうしたらいいかわからない

こんなふうになったらいいな！



- ・近所の人何者か知っている
- ・ボランティア、見守りを通して生きがいづくり
- ・ご近所のネットワークが出来ている
- ・SOSを出せない人には出しやすい環境を
- ・業者（新聞・水道・電気）と家族・親戚、近所・地域で見守りできる

助け合い・地域の取り組み

- ・小学生の見守りを親だけでなく地域ぐるみで行う
- ・顔を合わせる場をつくる
- ・住民が外にできるきっかけをつくる
- ・地域を超えた見守りをつくる（子ども、高齢者）

一人ひとりの取り組み

- ・高齢者は見守られるだけでなく、見守りすることもできる
- ・家族も積極的に見守りする。電話や訪問、近所と連携

ポイント

- ・なぜ「見守り」が必要か？を考えてみよう
- ・知らない人は「見守り」できない→顔の見える関係つながりづくりを地域で
- ・民生委員や地域福祉推進員だけでは見守りは出来ないため、地域ぐるみでフォローする
- ・声かけ、あいさつから見守りへ 見守りから助け合いへ



重点項目 4 買い物

未来のイメージ

「誰もが必要なものを自分で買うことができる地域」

みんなの困りごと、
将来不安なこと



- ・買い物難民で困っている、遠くの店までの移動手段がない
- ・近くに店がない!欲しいものが中々みつからない
- ・移動販売がもっと身近になってほしい
- ・高齢になり免許の返納を考えている、買い物が心配
- ・市内の店が少ない、専門的なものは外に行くか通販で購入しないといけない

こんなふうに
なったらいいな!



- ・買い物を気軽に頼める
- ・自分が行けなくてもお店が来てくれる
- ・家の近くで買い物ができる
- ・高齢者もインターネットで自由に買い物ができる
- ・自分で店まで行くことができる(自分で移動できる)

助け合い・地域の取り組み

- ・買い物に代わりに行く
- ・重いものを運ぶボランティア
- ・買い物ができるところに車で連れて行く
- ・地域の店をみんなで使う、つぶさない
- ・みんなで地域に店を開く(共同店)
- ・移動販売の充実(品揃え、回数、車両数)
- ・地場産マルシェを開催する

一人ひとりの取り組み

- ・自分で買い物に行けるように、健康に気を付ける
- ・ネットショッピングや通販、宅食サービスを活用する

地域ニーズの把握

- ・買い物で困っている人を地域で把握する
- ・高齢者向けのIT教室を開催する
- ・デマンドタクシーや乗り合いバスを地域で運行する

ポイント

- ・買い物は「移動」「選択」すべて自分でできるから幸福度が上がる
- ・「買う」ことだけでなく、その場に行くことが大切、生活の一部としての「買い物」と意識する

重点項目 5 つながり・担い手

未来のイメージ

「運営に自分ごととして取り組める町会組織」

みんなの困りごと、
将来不安なこと



- ・世代交代が出来ない、同じ人がずっと役員をしている、負担が大きい
- ・地域の担い手がない、一緒にやってくれる人がいない
- ・若い人が地域の集まりに入っていない、地域離れ
- ・地域行事への参加が少ない、いつも同じ顔触れ
- ・町会(共同体)の維持が難しくなってきた
- ・近所のコミュニケーション、世代間の交流が少ない

こんなふうに
なったらいいな!



- ・若い人も町会運営に参加している
- ・町会活動に参加しやすい仕組みができている
- ・世代ごとの役割分担ができる
- ・町会運営の意味・意義をみんなが理解している

助け合い・地域の取り組み

- ・10年後も維持できる共同体にする
- ・町会活動の見える化と組織の再編
- ・町会活動・行事の見直し
- ・外部委託も検討する
- ・シルバー人材センターや障害者の事業所を活用
- ・学生や他地域のボランティアも取り込む
- ・子どもにも参加してもらい、若い世代も町会活動に取り込む
- ・役についた人にメリットがあるようにする
- ・集まる場所をつくる
- ・地域通貨やポイント制にする
- ・転入者にもしっかり情報提供する
- ・引っ越ししてきた人や集合住宅の人も町会に参画できるように

一人ひとりの取り組み

- ・地域の将来を想像してみる
- ・自分のこととして意識する

ポイント

- ・今の町会活動は地域の現状に合っているか?
- ・世代が違えば、考え方が違う
- ・仕事で忙しい若い世代ができる役割は?
- ・新しい取り組みは町会から!
- ・町会の役割や仕事をみんなが理解しているか?人に説明できるか?
- ・転入者が生活を始めやすいように地域でフォローできているか
- ・町会の教科書、説明書をつくり理解を深める
- ・子どものころから町会・地域になじむ取り組みを企画する

活動事例 課題 生活



いきいきクラブ宮津山田達者会 (老人クラブ)
愛知県阿久比町

取り組み お助けマンとして高齢者の暮らしを支える

内容

元気なお助けマン(高齢者)が日常生活の小さな困りごとを抱えている近所の高齢者を助けています。
お手伝いのメニュー(全9項目)を提示し、片付けや電球交換、自転車のパンク修理等を行っています。
メニューで多く依頼があるのは、車の運転ができなくなった方からの粗大ごみ回収です。

活動事例 課題 担い手



桃の木台校区(小学校区)夢かなえ隊
(市社会福祉協議会による支援)
大阪府阪南市

取り組み 子ども福祉委員「夢かなえ隊」

内容

中学生の有志が、困っている人の思いや夢をかなえるため、日常のちょっとした困りごとに対する活動をしています。
子ども自身の学びと成長にもつながっています。

重点項目 6 介護・健康

未来のイメージ

「みんなで健康づくりをすすめ介護者が生活しやすい地域」

みんなの困りごと、将来不安なこと

- ・将来の家族の面倒・介護、仕事と介護の両立ができるのか
- ・健康でいられるか不安、家族が病気になったら生活が大変
- ・認知症になったら不安
- ・介護している人が集まって相談できる場が欲しい
- ・老老介護になるのがこわい
- ・制度がよくわからず不安、介護が必要になったらどこに相談したらよいか

こんなふうになったらいいな!

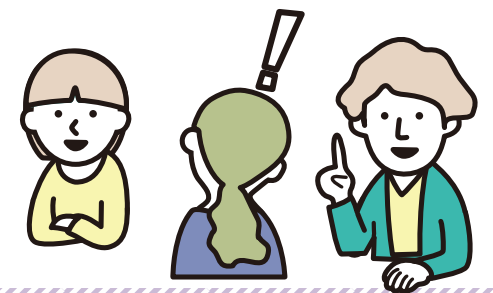
- ・趣味や生きがいをもって健康を維持できる
- ・介護保険制度やその相談窓口が分かりやすい
- ・地域の集まりで介護の制度や技術を知る事ができる

- 助け合い・地域の取り組み
- ・ボランティア活動を通して役割を持ってもらう
 - ・生きがいづくり
 - ・趣味を持っている人は健康!
 - ・多世代交流を進める
 - ・子どもが高齢者に元気をくれる
 - ・地域で介護教室を実施する
 - ・空き家をグループホームとして活用
 - ・若者にも「介護」を考えてもらう機会をつくる
 - ・もっと分かりやすい制度の周知方法を考える
 - ・「福祉の人」以外の人も巻き込んだ話し合いの場をつくる
 - ・重度者はプロ、軽度者を地域でみられる仕組みをつくる

- 一人ひとりの取り組み
- ・心身の機能が低下しないように日常生活においても気を付ける
 - ・住民も制度等を知る努力をする
 - ・老老介護等で負担が大きい場合、地域や関係機関に伝える努力をする

- 取り組みのアイデア
- ・若者向けの介護の勉強会で制度の理解を深め、自らの世代の問題点に目を向けてもらう
 - ・高齢となっても車を運転できるように、自動車学校とスポーツジムに協力してもらい、視力・認知機能等を維持する機会を作る

ポイント
・個人のマンパワーだけではなく、身近なところ(コミュニティセンターなど)で困りごとを相談して、組織として取り組む必要がある



重点項目 7 空き家・環境整備

未来のイメージ

「空き家・空き地を活用し、みんなの居場所がある地域」

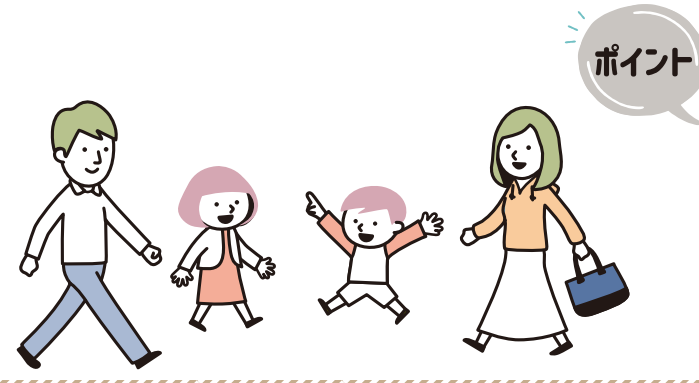
みんなの困りごと、将来不安なこと

- ・空き家の管理、増加、倒壊や防犯的な危険性
- ・空き家、空き地の利用について
- ・地域に集まる場所が欲しい、交流サロンを充実させてほしい
- ・子どもの居場所がない、子どもが外で遊べる場所が減っている
- ・高齢者が交流できるところが不足している、高齢者の引きこもり対策が必要
- ・福祉拠点が地域内にない、集団で話し合う場所が昔よりも少ない

こんなふうになったらいいな!

- ・空き家や空き地の管理ができている
- ・地域で空き地空き家を有効に活用している
- ・自分の「家」に対する未来図を考え相談できる場所がある

- 助け合い・地域の取り組み
- ・空き家マップを作成して把握する
 - ・本人や家族が元気なうちに建物の行く末を決めてもらって、必要があれば地域で確認する仕組みをつくる
 - ・グループホームや町内の子どもの遊び場、公園、菜園など、有効に活用することを検討する



ポイント
・空き家や空き地の利活用を考える
・相続等の問題もあるため一概には言えないが、活用方法を持ち主に提案する方法も有効と思われる
・活用の際には、持ち主に相談し、草刈り等の管理を地域で行うことも考えられる
・子ども、若者が元気になるような取り組みをして地域全体を元気に

活動事例 課題 買い物(移動)

魚津市社会福祉協議会 魚津市



取り組み 買い物支援(3地区)による実施
内容
それぞれの地区の要望に沿った買い物支援を実施し、地区社協、民生委員、福祉推進員は、買い物の支援や利用者への声かけ、見守り活動も兼ねています。
実施内容は、それぞれの集会場での市場形式、移動販売形式、市内のタクシー会社と福祉施設の協力を得て、ショッピングセンターへの運行を支援する形式など地域ごとの取り組みをしています。

重点項目
8 防災・災害対策

未来のイメージ

「災害時に混乱しない仕組みづくりに大人も子どもも真剣に取り組める地域」

みんなの困りごと、
将来不安なこと



- ・災害が起きた時に障害者や高齢者はどうする？
- ・小さい子どもがいる家、妊婦さん、障害児へ災害時の支援は？
- ・まず自分が助かることが大切だけど、その後の助け合いは？
- ・避難所、一時避難場所が周知できていない
- ・災害時に地域は何ができるのか

こんなふうに
なったらいいな！



- ・避難先のバリアフリーを考えている
- ・若い人も参加しやすい取り組みがある
- ・地域・町会だけでなく外の力（学生・小中学生の力）を活用、力を借りる
- ・地域の災害対策を分かりやすく「見える化」している
- ・子どもの頃から災害の教育に触れる機会がある
- ・地区、個人の避難計画を作成している

助け合い・地域の取り組み

- ・避難訓練を定期的・継続的に行う
- ・自主防災組織の機能を見直し活用する
- ・防災の知識や理解力（防災リテラシー）の向上を図る取り組みをする

一人ひとりの取り組み

- ・防災バッグを家で準備する
- ・避難経路、避難先を家族で話し合う

地域ニーズの把握

- ・地域、町会だけでなく外の力（学生・小中学生の力）を活用、力を借りる
- ・専門の学生の力を借りて、避難支援アプリの開発など

ポイント



- ・防災・災害対策は個人から地域まですべてが意識を持って取り組むことが必要です。災害時を考えるとときには、平時の問題から考えていく必要があります。その問題に一つ一つ取り組んでいくことが災害対策につながります
- ・災害が起きた時、設備や環境が整わず、しわ寄せが来て、最もつらい思いをするのは誰でしょうか。それは、介護が必要な高齢者、障害者、妊産婦、子どもそしてその家族です。避難先に指定される施設や、一時避難所となる集会所などのバリアフリーや備蓄、備品の配置は平常時にできる最も大きな取り組みの一つです
- ・防災の取り組みは、地域全体で取り組むことで、個人の意識も高まり防災リテラシーの向上につながります。地域の取り組みは、まず地域にどのような人がいるかを把握し、災害が起こった時にどのように行動するかを決めていく必要があります。防災リテラシーを向上させるためには、高齢者や若者、子どもなどすべての世代を巻き込む必要があります。町会の一部の人だけでなく、様々な地域住民が参加しやすい防災イベントを企画することが求められます
- ・避難経路や連絡手段についてもよく調べて考える必要があります。今後は、避難先への誘導や安否確認ができるアプリなど災害対策のデジタル化も進んでくると考えられ、地域だけではなく、外部の力も活用する視野の広さが必要になります。一部の大人だけでなく、小学生や中学生、高校生が防災計画づくりに携わることもできるでしょうし、外部の町会と避難先の受け入れなど助け合いの協定を結ぶなども考えられます。大学や専門機関との連携も可能です

重点項目
9 継続して地域に関わる仕組み

未来のイメージ

「将来の担い手が育つ地域」

みんなの困りごと、
将来不安なこと



- ・地域の活動、行事に参加する子どもが減っている
- ・ボランティア活動をする子ども、興味のある子どもが減っている
- ・地域社会に継続して関わる仕組みがない

こんなふうに
なったらいいな！



- ・七尾を好きと言える大人が増えている
- ・七尾に住みたいという子どもが増えている
- ・大人も子どももボランティア活動（地域の役割）をする人が増えている

助け合い・地域の取り組み

- ・防災訓練等で小中学生に役割を持ってもらう
- ・親子で参加できるイベント
- ・厄年、成人のときに地域に何か貢献する
- ・子どもが企画するイベント

取り組みのアイデア

- ・親子で参加できるイベント、子どもが企画するイベント、参加することでまちの歴史や行事の由来がわかるイベントなどを企画する
- ・小学生、中学生、高校生の各世代の子どもが社会に関わる事業に参画してもらう
- ・ボランティアを学校単位で考えて、福祉イベントで表彰したり、活動に予算を付けるなど、自分達の考えたことが実現する成功体験をプロデュースする
- ・おとなが、子どもの想いを実現するために、真剣に関わる

ポイント

- ・子ども会や青年団、老人クラブなど、年代ごとに地域に関わる仕組みがある
- ・中学生から20代前半、50代から60代半ばの年代においては、地域との関わりが切れやすい
- ・中学生から20代前半の時期に、地域に関わらないことは、地元への愛着や、地域への興味の減退につながりかねない
- ・各世代で継続して地域に関わることでできる仕組み作りをする



地域福祉活動計画は、七尾市地域福祉計画（行政の取り組みをまとめた計画）と一緒に進めていく計画です。この二つの計画は同じ未来のイメージ、中心となる考え方、進め方をもとにしてつくられています。

地域に住んでいる子どもや大人、色々な会社、お店など、お互いを大事にしながら、支え合って暮らしていく（地域共生）社会になることを目指しています。

目指す将来像：未来のイメージ

『希望と安心に満ちた福祉都市』

基本方針：進め方

1. 支え合いの「しくみ」づくり
2. 支え合いの「こころ」づくり
3. 支え合いの「活動の場」づくり

基本理念：考え方

1. すべての人が尊重され、共に生きるまちづくり
2. 偏見や障壁がなく、自由に社会参加できるまちづくり
3. 心豊かで、生き生きと暮らせるまちづくり

計画の位置づけ

地域福祉計画

- ・行政が取り組む福祉行政全体の活動指針
- ・個別計画の統合を図るための計画

連携

地域福祉活動計画

- ・住民が取り組む活動の指針
- ・住民活動を支援する七尾市社会福祉協議会の指針

10年後の七尾市を見据えて
何をすべきかを考える

施策の展開
行政サービス

支え合いの地域
地域福祉の発展
福祉でまちづくりの実践

住民による
様々な取り組み
地域福祉活動

第3次七尾市地域福祉活動計画（ダイジェスト版）

発行：社会福祉法人七尾市社会福祉協議会

〒926-0811 石川県七尾市御祓町1番地（パトリア3階）

電話 0767-52-2099 / F A X 0767-53-4100

Web <http://www.nanaosyakyo.jp/>

E-mail nasyakyo@nanaosyakyo.jp

令和3年10月